



シーティングの基礎〈その1〉

シーティングは
大きな効果をもたらします！



川村 一郎

■はじめに

最近、シーティング(座位保持)に対する関心が急速に高まりつつあります。その理由として、1990年(平成2年)に身障法や児童福祉法により交付される補装具として「座位保持装置」が新たに認められたことをあげることができましょうが、むしろ逆に、それだけシーティングに対するニーズが大きくなったと考える方が自然でしょう。

私達は昨年秋にカナダオットーボック社から3人の技術者を招き、MOSS II (Modular Orthotic Seating System II) のセミナーを開催致しましたが、その時、彼らが使用しましたテキストが非常に良くできている様に感じましたので、それを中心にシーティングの基本的な考え方を紹介致します。少しでも皆様のお役に立てば望外の幸せです。

シーティングの目的

「寝たきり」の人を座らせても、「座りきり」になるだけで意味が無いと言う人が居るようですが、寝たきり状態から座る姿勢への転換により、得られるものは極めて大きいものがあります。

座位をとることにより期待される効果として、次のようなことがあげられます。

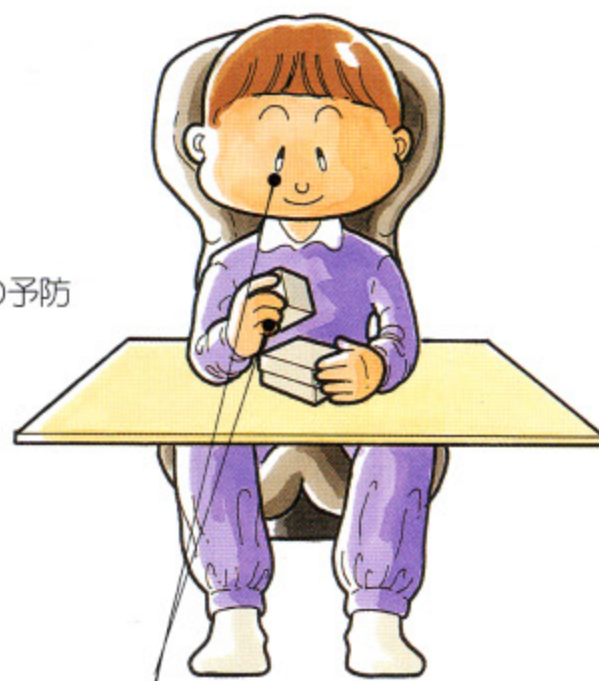
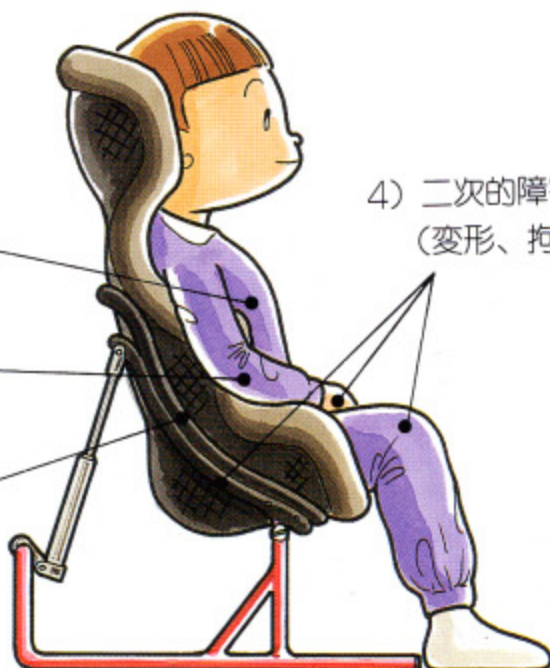
●身体に対する効果

1) 心肺機能の改善

2) 消化、排泄機能の改善

3) 傍脊柱筋の筋力強化
による姿勢制御力の向上

4) 二次的障害
(変形、拘縮、褥瘡)の予防



5) 眼と手の協調が可能となり、上肢機能の改善が期待できる。

6) 二次元的視点から三次元的視点への転換による精神心理的発達の促進

●日常生活動作に対する効果

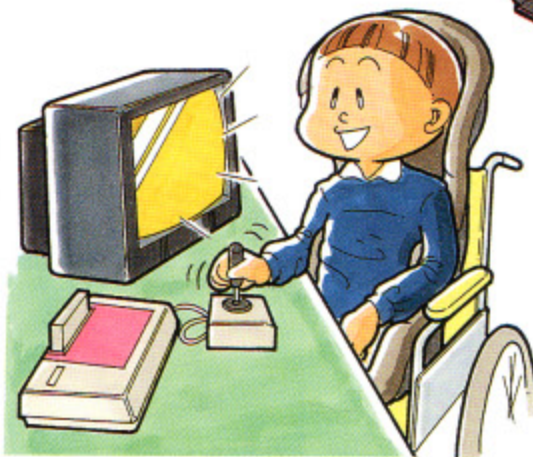
7) 学校では、より積極的な学習への参加が可能となる



8) 介護が容易化される



9) 家庭では、家族と同じ食卓で食事やコミュニケーションができる



10) 摂食、手を使つての遊びなどの可能性が高まる

このように、寝たきりの人を座らせることにより、小児の場合は身体的精神的発達を促進することができますし、また、高齢者の場合には自立して生活できる期間の延長が期待出来ます。シーティングにより、適切な座位保持が得られれば患者のQOLは飛躍的に向上します。

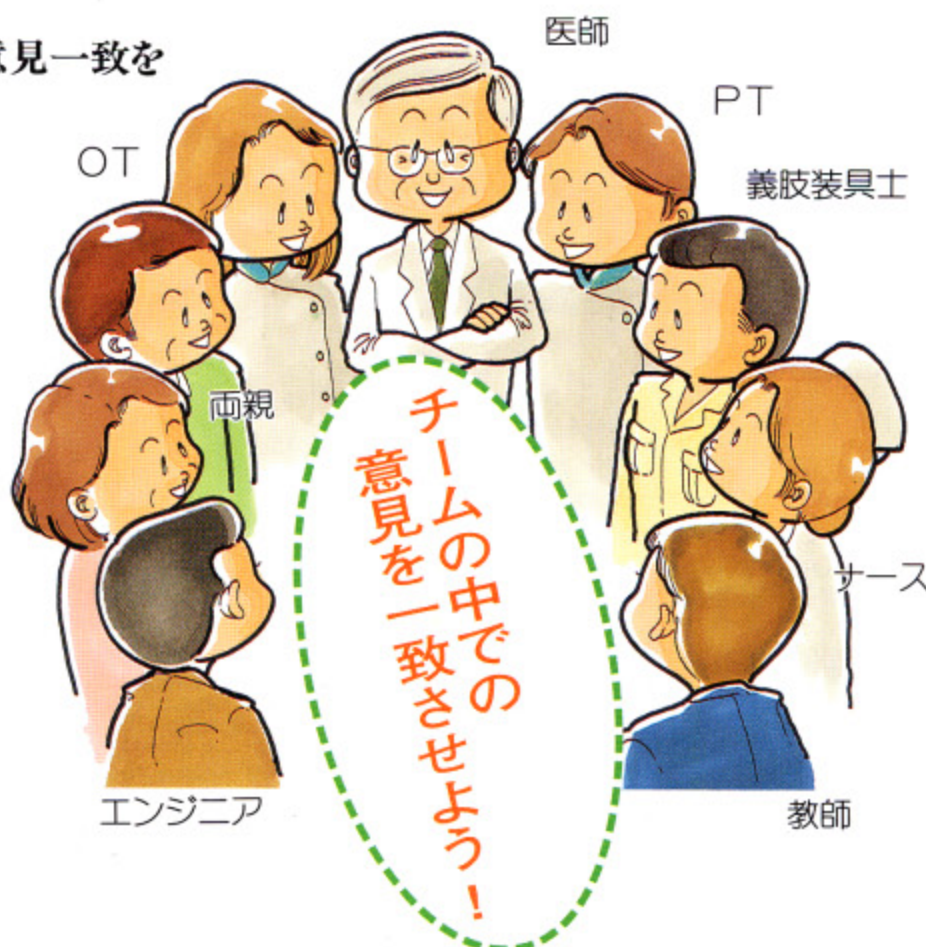
設計の前に重要なこと チームの中での意見一致を

シーティングは医療、看護、介護、教育、日常生活、移動など極めて広い領域に関係していますので、どのシーティングを採用し、どのような設計にするかを決める時には、両親、教師、医師、PT、OT、ナース、エンジニア、義肢装具士など、すべての関係者が話し合うことが必要です。その時、大切なことはその患者のトータルケアプラン(全体的な介護プラン)の中で、特にシーティングで目標とするものは何かについて、関係者の間で意見の一致をみておかねばなりません。

例えば、

- 座らせること自体 ○変形の予防 ○異常反射の抑制
- 移動 ○手の使用(食事を自分でする ワープロを打つ)
- TVを見る ○座位で授業を受ける
- 家族と一緒に同じ食卓で食事をする

もちろん、いくつかの目標を同時に達成することができればそれに越したことはありませんが、あれもこれもと欲張って結局どれも中途半端になって、折角製作されたものが使用されなかったというようなことは 避けなければなりません。



★続きは次号に掲載致します。